新規開業

整形外科・リハビリテーション科

仙台たなか整形外科スポーツクリニック（仙台市泉区）



「仙台たなか整形外科スポーツクリニック」は、2019年5月、田中稔院長が「自分の理想とする診療を実現したい」との思いから開院されました。開院と同時にBMLの電子カルテシステム「Quails（クオリス）」を導入し、その後「Quails Cloud（クオリスクラウド）」へ移行。田中院長に、日々の診療での活用方法やクラウド版への移行効果などを伺いました。

クラウド移行でバックアップや起動の負担を軽減

Qualisの導入の決め手とよく使う機能

選定のきっかけは、開業を支援したコンサルタントからの推薦でした。
「デモンストレーションで印象に残ったのは『お気に入りセル』です。それまで使ってきた電子カルテにはあまりない機能で、使いやすそうだと感じました」（院長）。
『お気に入りセル』には薬剤のセットに加え、注射等の内容を穿刺部位・種類・点数別に色分けして登録。病名も種類や部位ごとに整理し、該当するセルをクリックするだけで入力できるようにしています。開院当初は院長自身が設定していましたが、現在はスタッフも操作を習得し、診療内容の変化に合わせて柔軟に更新しています。
「注射の件数が多い当院では、『お気に入りセル』が最も活躍している機能だと思います。自分たちの診療に合うように作り込めるので、今はとても使いやすい状態になっています」。

文書作成や画像参照、リハビリでの情報共有にも活用

院長がもう一つ高く評価されているのが文書管理機能です。診断書だけでなく、手術説明書など複数のひな型を登録し、使用時には日付や画像を追加するだけで文書を作成できるようにしています。「手術の説明書は、あらかじめ作ったものを登録しているので、必要な日付や画像を貼り付ければ完成します。とても使いやすく、日常的によく活用しています」。
PACSとも連携しており、電子カルテからその患者さんのレントゲン画像をすぐに表示できます。リハビリ室では理学療法士が実施内容や所見をカルテに入力し、診察室との間で患者さんの状態や治療経過を円滑に共有。受付一覧画面では初診やリハビリなど患者さんごとの情報をコメントで表示し、来院目的を一目で把握できるようにしています。リハビリの予約システムと併せ、1日平均約190～200人の患者さんに対応する院内のスムーズな連携に役立てています。

オンプレミス版からクラウド版への移行

クラウド版への移行の背景には、日々蓄積するデータ量の増加がありました。
「オンプレミス版では、一日の診療終了後、バックアップを終えてシャットダウンするまでに時間がかかっていました。データが増えるにつれて長くなっていましたが、クラウド版ではその作業がなくなり、かなり楽になりました」。
起動時の負担も軽減されました。オンプレミス版では決められた順序で複数の機器を立ち上げる必要がありましたが、クラウド版では必要な端末だけを起動できます。「診療後に急にカルテを確認したくなった時も、端末を一台だけ立ち上げればすぐに見られます。機能や操作感は変わらず、便利になったという印象です。スタッフも違和感なく使えています」。

導入支援とサポート

導入時にはBMLのインストラクターが訪問し、操作方法を説明しました。「親切に教えてもらい、問題なくスタートできました。訪問日数もちょうどよかったです」。
稼働後も、困った時にはサポートセンターを利用。必要に応じてリモート接続による支援を受けています。
「時々問い合わせていますが、リモートでも対応してもらえて助かっています。私の印象では、BMLのサポートはとても親切です」。

『Vita（2026年10月発行）』より抜粋